

## 特集

## 愛着（アタッチメント）について

「愛着」ということばは、日常生活でもしばしば登場します。愛着のあるぬいぐるみ、故郷に感じる愛着など・・・・・・・・・・。同時に、この「愛着（＝アタッチメント）」は、発達心理学の用語としても用いられます。発達心理学における「愛着」とは、「人や他の生き物が、自分以外の個体や親（養育者）にくっつく、関係を求めようとする傾向や行動」のことを意味します。



イギリスの精神科医ジョン・ボウルビー（1907-1990）が提唱したこの概念は、子どもたちを見ているといつでも観察することができます。

お母さんに手を伸ばし、抱きつくと、お母さんはそれに応えてぎゅっと赤ちゃんを抱きしめます。赤ちゃんは安心してお母さんに体をあずけます。当たり前のような光景ですが、この一連の行動が、子どもたちの成長発達に非常に重要であると言われています。

赤ちゃんが空腹や、眠気、おむつが濡れている、不安などを感じ、周囲にシグナルを送り、養育者がそれを受け止めて適切な反応を返すことで、赤ちゃんは養育者を愛着の対象としていきます。ひいては、それが「安心・安全の基地」となり、「基本的信頼」の基盤となります。

愛着の対象が「安心・安全の基地」として安定して存在することで、子どもたちは広い外界に出ていく勇気と自信を身につけます。広い外界で、他の人々や世界に働きかける主体としての自覚・自信・社会的な自己効力感のことを「基本的信頼」と呼びます。この基本的信頼は、幼少期だけでなく、生涯にわたってその人の人生に対する姿勢の基礎となる重要な要素です。

幼少期に愛着の形成に問題を抱えてしまうと、子どもたちは自分が生まれ落ちた世界で、一個人として能動的に生きていく力・勇気を持つてなくなる可能性があります。

愛着形成の一番基礎的な部分はもちろん、養育をされる方々が重要な役割を果たしますが、さまざまな研究から、子どもたちが抱えた愛着の問題は、養育者（親）以外の周囲の大人や、地域の仲間からの安定した関わり合いにより改善することもわかっています。

子育ては親がやるもの、という凝り固まった考えではなく、すべての大人がすべての子どもたちに愛着・愛情をもって接し、育める地域社会が理想的なのかもしれません。

コロナ禍を経て、人と人とのつながりや、未来に向けて育っていく子どもたちとの関わりを、改めて考え直してみてもよいのでは、という思いとともに、当院では小児科診療をおこなっています。

【 担当：小児科 中島 隼也 】

# エックス線透視診断(テレビ)装置が新しくなりました！

今年2月より、エックス線透視診断（テレビ）装置を新しく更新しました。今回導入した機器（フジフィルムヘルスケア社製 CUREVISTA Open）の特徴について



図.1 車いす患者撮影

➤ 「多目的性」

X線管を180°回転することが可能。この可動性を活用することで、正面位の嚥下造影検査や、車いす（図.1）・ストレッチャーでの検査、一般撮影に代わり胸部撮影など多様な検査に対応できます。

➤ 「低被曝と高画質の両立」

13もの被曝低減技術を利用できる新被曝低減プログラムやパルスX線に含まれる無効被曝成分（波尾）をカットする機能を有し、透視X線量を1/2～1/3に設定してもなめらかな透視画像を維持でき、被曝線量を半分に低減することができます。

➤ 「長尺撮影」

機能的特徴として、長尺撮影という整形外科に特化した検査に優れ、脊椎全体や下肢全体を1枚の画像になるように撮影できます。従来の長尺撮影に比べ、画像のゆがみが少なく正確な術前計測が短時間で表示でき、自然な状態で骨の位置関係を調べることが可能となりました。



小児などに多く見られる、脊椎側弯症等の診断及び経過観察



下肢全長撮影は主に変形性膝関節症の患者さんなどに行います。足に体重がかかるように立った状態で撮影し、変形による「足の軸のズレ」を計測します

放射線を扱う機器は患者様にとって被曝というリスクを伴いますが、今回導入した機器は、より少ない放射線被曝でより精密な画質が担保される為、リスクを最小限にしながらか最高の治療につなげられる検査が可能となります。機器の進歩は日進月歩ですが、よりよい治療に繋がられるよう、機器の性能を十分発揮させ、今後とも精度の高い検査の提供に努めてまいります。

【 担当：診療放射線科 木下 峻 】

## 診療実績

○受託検査実績		
項目	5月	6月
CT	45件	47件
MRI	46件	38件
超音波検査	18件	12件
その他検査	12件	11件

○診療実績			5月	6月
項目				
紹介患者数			290人	316人
逆紹介患者数			254人	260人
1日当り患者数	入院		183.9人	187.8人
	外来		490.0人	489.5人
病床利用率			70.7%	72.2%
救急搬送件数			101件	102件

【 発行 】

菊川市立総合病院 地域医療支援課 〒439-0022 静岡県菊川市東横地 1632

TEL：0537-35-2344

Eメール：renkei@kikugawa-hosp.jp

FAX：0537-35-2843

ホームページ：http://www.kikugawa-hosp.jp



©菊川市